

及ヒ元則ノ學理ヲ探究シ第二ニ特別法ノ學理即チ氏自ラ言フ如ク一國ニ行ハル、所ノ制定法或ハ一國ニ行ハレタル所ノ制定ノ法各組織ニ關スニ學理ヲ論究シ且ツ氏ハ能ク普通法理ト特別法理ノ區別ヲ明ニシ併テ法理學ノ目的トスル所ハ何チカ法律ト云フコトニアラスシテ法律ハ如何ナル性質ヲ備具セサル可カサル乎ヲ推究スルニアルコトヲ吾人ニ知ラシメタルハ苟モ氏ノ法理論ヲ讀ム者皆能ク記憶スル所ナルヘシ

古來羅馬ノ法律家ハ法理學ニ關シ未タ曾テアウスチン氏ノ如キ明瞭ニシテ且シ精密ナル分析區畫ヲナセシコトナシト雖モ近世歐羅巴ニ於テ普通法理ニ關スル重要ナル元則及ヒ思想ヲ討究説明シ大ニ法理學ノ發達ヲ獎勵シタルハ全ク羅馬法律家ノ功績ト云フヘシ然レトモ普通法理ノ羅馬國法トノ區別及ヒ道德ト法律間ノ區域ヲ明了ニ區畫

セサリシハ實ニ一大缺點ト云ハサルヲ得ス既ニ吾人カ論セシ如ク羅
 馬法律家ハ希臘哲學ノ餘波ヲ受ケ自然法ニ固着シ而シテ自然法國際
 法及ヒ古代固有法ト一體ニ混同スルニ汲々タリシガイアス氏ノ法典
 ニ依レハ法律ノ各組織ハ必ラス普通法及ヒ國法ノ二元素ヲ含有セサ
 ル可ラサルコトヲ公言セリ然レトモシヤスナニアン帝ノ法典ニ於テ
 ハウルピアン氏ノ著書ヨリ拔萃シタルニ定義ヲ附セリ然レトモ是等
 ノ定義解釋ハ却テ當時ノ法律家カ法理學ノ範圍ヲ畫定區分スルノ精
 密ナラサリシコトヲ證明スルモノニシテ是ニ由ツテ該法典ノ編纂セ
 ラレシ時代ニ於テ哲學ニ類スルモノ決シテ存在セサリシコトヲ見ル
 ニ足ルヘシ第一ノ定義ニ於テハ「シヤス」ナル法語ニ關シ公正ナル德義
 上ノ解釋ヲ與ヘタリト雖モ其意果シテ如何ヲ審ニスル能ハス第二ニ
 曰ク法理學トハ人事及ヒ神事ノ知覺ナリト蓋シ是ノ人事及ヒ神事ノ知

覺トハ所謂法律ハ宇宙及ヒ人類ヲ通シテ同一ナル道理ノ顯像ナリト
ノ哲學上ノ一撮要語タルノ一モ普通ノ意義ヲ有セサルナリ
吾人ハ唯歴史上法律及ヒ法理ニ關シ羅馬ノ思想ヲ論シ併セテ其主義
思想ハ如何ナルモノナリシカ又其淵源ハ何レニ發セシヤヲ研究セン
トス然レトモ此主義思想ヲシテ近世ノ法理哲學ニ據リテ尙ホ一層精
密ノ區域ニ達セシムルコトハ到底吾人ノ爲シ能ハサル所ナリ

第三十五節 法律ノ淵源

以上論述セシ如ク歴史上ノ概略ハ以テ羅馬法ノ淵源ハ如何ナルモノ
ナリシヤヲ見ルニ足ルヘシ即チ其淵源ハ左ノ三元素ヨリ成立ス

第一、重モニ習慣ヲ基礎トスル古代ノ固有法

第二、奉行判決例及ヒ自然法國際法ニ據リ固有法ヲ補充スルヂユリスアリユ明法學

デナンツ
士ノ説

第三、四種ノ布告即チ第一國民總會ノ布告第二民會ノ布告第三元老

院ノ布告第四皇帝ノ敕令是ナリ

第三十六節 一「シヤス」ジユラ「權利及ヒ羅馬私法ノ區別

「シヤス」
「ジユラ」
「權利及ヒ羅馬私法ノ區別」

吾人羅馬法ヲ研究スルニ當リ「シヤス」ナル法語ヲ解明スルヲ以テ第一
ノ必要トス抑「シヤス」ナル語ハ法律ニ由テ制裁ヲ付セラレタル權利及
ヒ之ニ對スル義務ノ總稱ニシテ時ニ或ハ是等權利ノ集合體ヲ指シ或
ハ單獨ノ權利ヲ指スコトアリ元來法律ナルモノハ社會各人ノ物件ニ
對シ及ヒ各人相互ニ對スル關係ヲ規定スルモノナリ而シテ社會ノ各人
カ物件及ヒ相互ニ對スル關係ニ就キ法律上ノ救濟ニ依リテ保護セラ
ル、名義ヲ權利ト謂フ而シテ權利ハ人ニ屬シ又人ニ附着スヘキモノ
ト思考セラル、モノナルカ故ニ之ヲ人ノ權利ト謂フ即チ余ノ書籍ヲ
持ツヘキ權利或ハ汝ノ家屋ヲ有スヘキ權利ト謂フカ如シ(是ヲ羅馬語

ニテ謂フトキハ書籍シヤスミヲ有スヘキ權、家屋シヤスチユアヲ有スヘキ權是ナリ。吾人若シ
 一國ノ法律ニ據リテ規定セラレシ夥多ノ權利ヲ探究スルトキハ吾人
 カ政治社會上一己人トシテ各人ニ關スル公法ノ部分ヲ發見シ又直接
 ニ一己人ニ關スル私法ノ部分ヲ發見スヘシ
 吾人カ今將サニ論セントスル所ノモノハ羅馬法ニ據リ規定セラレシ
 一箇人ニ屬スル權利即チ各人カ物件ニ對シテ有スル權利或ハ自他ノ
 一人若クハ數人ニ對シ有スル權利ヲ論究セントス而シテ先ツ第一ニ
 羅馬法ニ於テ人ヲ規定スルノ如何ヲ説キ次ニ物件ニ關シ羅馬法ノ規
 定スル方法ヲ論シ然ル後チ各人相互ニ對スル權利ヲ講シ最後ニ若シ
 一箇人ニ屬スル權利ニ關シ爭論ノ起リシトキ政府ハ如何ナル方法手
 段ニ據リテ之ヲ裁決處斷セシカ即チ民事訴訟法ノ組織ニ説キ及ホサ
 ント欲スルナリ

第一章 人ヲ論ス

第二十七節

人ナル文字ノ義解

羅馬法ノ慣習ニヨリ人ナル文字ハ吾人カ通例用ヰル所ノ人テフ文字トハ其意大ニ異ナル所アリ蓋シ羅馬法ニ所謂人トハ其人ノ誰タルヲ論セス其物ノ何タルヲ問ハス總テ權利ヲ有シ得ヘキモノ及ヒ權利ニ服從シ得ヘキモノヲ謂フ故ニ奴隸モ亦人ナリ何トナレハ則チ奴隸ハ物件ニアラスシテ法律上多少ノ權利ヲ有シ且ツ近代ニ至リテハ多少法律ノ保護ヲ享クレハナリ奴隸ハ人事篇中ニ於テ斯ノ如キ地位ヲ占ムルト雖モ特ニ學者ノ注意ヲ要スル所以ハ法律上ノ資格ノ缺ク所アルニヨルモノトス然レトモ法律上人ト稱スルモノニシテ有形上ノ成立チ有セサルモノ亦多シ是レ法律ハ無形ノ觀念ヨリ成立スルモノト假想シ之ニ附與スルニ權利ヲ有シ又ハ權利ニ服從スヘキ能力ヲ以テセ

身分及自由

シカ故ナリ譬へハ法律ハ邦國ヲ以テ土地或ハ奴隸ヲ所持スルニ適當ナル人ト認定スルカ如シ又會社或ハ宗旨上ノ組合ノ如キモ亦均シク人ト看做シ其會社組合ヲ組織スル所ノ一箇人トハ全ク別種ナルモノトス加之ヒスカス即チ國庫ノ如キモ亦皇帝ノ權利ヲ表スルモノトシテ人ト認定スルコト在リ

第二十八節 身分及自由

夫レ法律上人ト稱スル所ノ一箇人ノ地位ヲ指シテ法語ニ之ヲ身分トステダス言フ而シテ此身分ヲ組織スル所ノ元素ハ第一自由ナル事第二府民ナルヲ第三一家族員タル事ノ三者トス故ニ人タルモノハ第一自由ナラサルヘカラス彼ノ奴隸ナルモノハ更ニ權利ヲ有セサリシカ羅馬法ノ進歩セサル往時ニ在リテハ奴隸ノ權利ヲ有セサルヲ以テ自然ニ背反スルモノタルヲニ考及セシモノハ一人モアラサリシナリ然ルニ哲

學並ニ道德學ノ盛ナルニ隨ヒ諸法律家ヲシテ奴隸ノ權利ヲ剝奪スル
 ノ自然ニ背反スルヲ曉ラシムルニ至レリ尤モ人ノ身分ハ出生ノ當
 初ヨリ自由ナラサル可カラフト謂フニアラス何トナレハ則チ奴隸解
 放ノ法方ニヨリテ奴隸ヲ自由人トナスニ當リ或ル程度ニ至ルマテハ
 奴隸ヲ自由人ト同位地ニ置キシヲ以テナリ(羅甸語ニテ生來自由ナル
 人ヲ「インツナス」ト言ヒ奴隸ノ解放セラレシモノヲ「リバルタイナス」ト
 言ヒ而シテ其之ヲ解放セシモノニ對シテ「リバルダス」ト言フ蓋シ奴隸
 ノ解放ニヨリ直チニ羅馬府民トナルヲ得ルヤ否ヤハ解放ノ時ノ事
 情ト方法トニ依ルモノニシテ而シテ如何ナル法方ニ由リテ解放セラ
 レシト雖モ其之ヲ解放セシモノニ對シテハ猶ホ多少ノ義務ヲ負フモ
 ノニシテ或ル場合ニ於テハ其解放者ハ被解放者ノ相續人ナルヲ在リ

第三十九節

府民タル事

府民タル事

府民タル事

身分ノ第二元素ハ府民タルコナリ蓋シ國家ニ關スル羅馬人ノ思想ハ
 一定セル公權及ヒ私權ヲ專有スルコトニ依リ宇内自餘ノ邦國ト分別シ
 テ特權ヲ有スル一体ノ結合ナリト云フニアリ往昔羅馬本土譯者曰ク
 トハ羅馬府下ヲ云ヒ羅馬國ノ府民即チ「サイブス」ナルモノハ分レテ二
 全体ヲ意味スルニアラス
 体トナリ一チ「パトルス」英語「パトロン」「奴隸ヲ養フ所ノ主人」ヲ意味ス
 ント云フ「パトルス」ハ「プレベイヤンス」ト異ナリテ特種ノ公法及
 ヒ聖法ヲ有セリト雖モ私法ノ享有ニ至リテハ「アレベイヤンス」ト同一ニ
 シテ更ニ異ナル所アラサリシ也而シテ總テ羅馬本土以外ノ人民ヲ敵ホテ
 人及蠻人ト稱セリ然レトモ文明ノ進歩スルニ從ヒ外國人貿易ノ爲メ
 羅馬ニ入り來タリ府民ト親シキ關係ヲ結フ者ノ其數月ニ加ハリ歳ニ
 増シ終ニ殊別ノ一社會ヲナシ外國人ト稱スル一体ヲ爲スニ至レリ此
 ニ於テ遂ニ羅馬府民タルコト外國人タルコトノ間ニ著シキ區別ヲ生

シタリ
 凡ソ外國人タルモノハ普通法ニ依リテ支配セラレ府民ハ獨リ羅馬固
 有法ノ特權ニ依リテ保護セラル、ヲ得タリ然レトモ羅馬國民カ以太
 利ノ諸國民ヲ征服スルニ當リテ羅馬國ト其版圖トノ間ニ許多ノ關係
 ナ生スルニ至リタルヲ以テ之ニ附與スルニ特權ヲ於テシ府民ト外國
 人トノ中間ニ其地位ヲ定メタリ而シテ此中間ノ地位ヲ附與シタルト
 ハ羅馬府民タル特權ノ一部ヲ許與シタルヲ云フモノニシテ特權ノ一
 部トハ即チ司法官吏ヲ投票スルノ權及ヒ司法官タルノ權コンニユービアン、マムコル
カノアルス權是レナリ而シテ此婚通權ナルモノハ別ニ解放ヲ下タスヲ要セサル
シナム可シ蓋シ羅馬家族ノ基礎ハ羅馬固有法上ノ婚姻ヨリ成ルモノニシテ
 婚通權ヲ有セサルモノハ羅馬家族組織法ノ中ニ入ルヲ得サリシナ
 リ貿易權中ニハ財產ヲ所有スル權羅馬法ニ依リ契約ヲナシ得ルノ權

遺囑ヲナシ得ルノ權及遺囑ニヨリテ財產ヲ受ケ得ルノ權ヲ含蓄スル
モノトス
羅甸法律及以太利法律ハ羅馬府民タル身分中ニ含蓄スル種々ノ權利
ニ就キ夥多ノ變革ヲ施セリ而シテ羅甸法律ハ一個人ニ私權ヲ附與シ
以太利法律ハ都府ニ公權ヲ附與セリ然レトモ或ル場合ニ於テ羅甸法
律ハ婚通權及ヒ交易權ヲ附與シ又或ル場合ニ於テハ只交易權ノ一小
部分ノミナ許與システタメシフアクシヨ即チ遺囑ヲ爲スノ權或
ハ遺囑ニ依テ財產ヲ受クルノ權ヲ許與セサリシヲアリ然リ而シテ以
太利法律ハ或ル都府ニ限り自治ノ制度直稅ノ免除權及ヒ羅馬固有法
上ノ所有權ヲ附與シタリ（第五十八節ヲ參觀ス可シ）
時勢ノ進歩スルニ從ヒ羅馬府民ト外國人トノ間ニ猶ホ許多ノ區別ヲ
生シタリト雖モ府民タルノ權ヲ漸次容易ニ許與セシテ遂ニ其區

家族

別ノ痕跡ヲ存セスカラカン帝ノ治世ニ至リ帝國中諸種ノ自由人民ニ
府民タル權利ヲ附與シタリ於是乎爾後外國人ナル一種族ハ全ク其跡
ヲ絶テ文明世界ノ自由人民ハ皆府民サイプスニシテ其他ハ悉ク蠻人バルバリ及ヒ敵人ホステス
ナリシナリ

第四十節 家族

羅馬家族ノ制ハ羅馬固有法ニ依リ一種特別ナル方法ヲ以テ組織シ其
基礎タルヤ自然ノ彝倫ニヨラスシテ寧ロ固有法ニ基ツクモノト云ハ
サルヲ得ス抑モ同家族中ノ各人ハ血統ニ依リテ結合セラルヽニアラ
スシテ一種奇異ノ組織内ニ位スルモノナリ今夫レ斯クノ如キ一家族
ヲ爲サントスルニ最モ必要ナルモノハ法律上ノ婚姻ナリ然レトモ此
法律上ノ婚姻ハ單ニ家族ヲ組織スルノ一方法タルニ止マルモノニシ
テ家族特權ノ性質ハ決シテ結縁ニ依リテ生スルモノニアラス而シテ

一家族ノ首領タルモノハ其同族全體ヲ代表スル如キ非常ノ權ヲ有ス
 ルモノニアラスト雖モ殆ント一家族ノ全權ヲ掌握スルモノト云フテ
 可ナリ而シテ一家族中獨リ家長則チ首領ノミ自主權スアイシユリスヲ有シ他ノ家族
 者ハ自主權ヲ有セス唯首領ノ代表ニヨリ其權ヲ表スルヲ得ルノミ
 抑モ家族ノ首領即チ家長ペイタルフアンリスナルモノハ其權力ヲ以テ家族各員ヲ支配セ
 シモノニシテ一種特別ノ性質ヲ有セシメシ所以ハ全ク此權即チ家長ノ權ヲ指
示ニ本ツク者ニシテ一家族首領ノ地位ニ立ツモノハ獨リ家長アリシ
 ノミ而シテ小兒ハ家長ノ權力ノ下ニ屬シ其妻ハ家族組織ノ對偶ヲ保
 持スル爲メ法律上家長ノ女兒ト見倣サレタリ妻ハ學術上ノ語ニテ
ナマス内ニアルモノトシ此マナスナル語ハ家長權チ意味若シ婦女其
 スル古語ニシテ家長即チボラスタスハ近世ノ羅旬語ナリ若シ婦女其
 父ノ家ヲ去リ他ヘ婚姻スルトキハ其婦女ハ其夫ノ家族ニ入り其父ノ
 家族ヲ脱ス然レトモ其男子婚姻スルモ總テ其子ノ子孫ハ其父ト等シ

ク同一家長ノ權内ニ屬スルモノナリ斯クノ如クシテ男系統ノ子々孫々ハ悉ク同一人ノ家長權内ニ屬スルモノトス是レニ依テ之ヲ觀レハ家族間ノ縁繩ヲ組織セシモノハ決シテ天然ノ血統ニアラサルヲ知ルヘシ而シテ一家ノ長若シ死スルキハ其子皆順次ニ家長トナリ且自主權ヲ有シ總テ其子ノ男系統ノ子孫ハ又皆其權内ニ屬ス而シテ婦女子モ亦其父ノ死去セシ後未タ嫁セサルモノハ皆自主權ヲ有ス然レトモ婦女子ノ一タヒ法律上ノ婚姻ヲナシ且夫ノ家ニ入ルヤ其婦女ハ他家族ノ權内ニ在ルモノナリ故ニ人皆曰ク婦ハ家族ノ初メタリ又其終リタルモノナリト何トナレハ即チ婦女ハ一家族ヲ保タントスルヤ直チニ他家族ニ入ルモノナレハナリ（一）家族ヲ保ツトハ其父ノ死去セシトキハ自主ノ權ヲ得テ一家族ヲナサントスルヤ否ヤ又直ニ其夫ノ家族ニ入ルモノナルヲ云フナリ

第四十一節 家長權ヲ有スル者ノ位地

家長權ヲ有スル者ノ位地

他人ノ權力内ニアルモノハ自己ノ財産ヲ得或ハ所有シ能ハサルナリ
家長ハ一家ノ首領コシテ其家族ノ全財産ヲ所有ス故ニ其子タルモノ
、得ル所ノ財産ハ常ニ其父即チ家長ノ所有タリ然レモ民法ノ場合ニ
於テハ屬從者(家長ニ從屬スル者)ト雖トモ家長ト異ナラス毫モ不能力
ナルコトナク即チ從屬者ナル其子ハ司法官タルヲ得又タ司法官ヲ投
票シ得ルナリ然レモ司法ニ於テハ全ク其父ノ權内ニ在リテ更ニ自己
ノ權ヲ有セス其父ハ一ノ財産ヲモ有セサルカ故ニ遺囑ヲ爲ス能ハス
又一物ノ彼レニ屬スルモノナキカ故ニ訴訟ヲ起シ能ハサルナリ然レ
モ民法ノ關係ニ於テハ常ニ其子タルモノノ財産ヲ所有シ能ハサルニ關
セス一市民ノ有スル總テノ權利ハ之ヲ有スルモノニシテ例ヘハ婚通
權ヲ有スルカ故ニ法律上正當ノ婚姻ヲ結フヲ得又交易權ヲ有スルカ
故正式賣買(證人ヲ設ケ賣買ヲ爲スチ云フ此レ法律上正當ノ賣買ナリ)

ニ於テ證人タルヲ得蓋シ正式賣買ノ證人タルヲ得ルモノハ獨リ府民
 アルノミ後世ニ至リ屬從者ヲシテ獨立ニ或ル財産ヲ所有セシムル
 ナ許シタリ蓋シ此許容タル其初メ兵役ニ從事スルヲ獎勵センカ爲
 メニ設ケタルモノニシテ法律ノ原則ヲ相去ルヲ甚タ遠キモノトシテ
 論セラレタリ

家族解放

第四十二節

家族解放

法律上ノ家族法ト自然家族トノ間ノ差異ハ法律上ノ家族員ハ其本族
 ナ脱シ全ク他人トナリ而シテ又タ他家族ニ入り恰カモ其他家長ノ子
 タル如クニ法律上認定セラル、ヲ以テ知ルヲ得ヘシ而シテ本族ヲ脱
 シ及ヒ他族ニ入ルノ方法ハ賣買ニヨリテ其目的ヲ遂クルモノトス
 羅馬府民ハ皆(マンシペーシヨ)ト稱スル賣買ノ格段ナル法式ニヨリテ
 他人ニ其身ヲ賣渡スヲ得ルモノニシテ其父タルモノハ其從屬者ノ

上ニ有スル所ノ權利ヲ以テ名儀上ノ購買者ニ賣ルヲ得而シテ其買主ハ其子ヲ買受ケタルモノト假定セシナリ羅馬十二銅表ニ於テ三度ヒ其父ノ爲メニ賣レタル子ハ其父ノ權内ヲ脱シ自由ヲ得ヘキモノトセリ故ニ賣買ノ式ヲ三度履行シテ後初メテ其子ハ家族ヲ解放サレ或ハ其家族ヨリ賣レシモノト云フヘキナリ若シ從屬者ナル人或家族ノ人員トナリタル時ハ養子アドプシオン（當今ノ養子ト少）ノ式ニ依テ之レヲ實行シタルモノナリ而シテ此式モ亦一種ノ賣買式ニシテ其養子タラント欲スルモノ、始メ脱セシ家族ノ家長ハ賣主ニシテ新ニ入ラントスル所ノ家族ノ家長ハ即チ買主ト爲リ其賣買ノ式ヲ施行スルモノトス若シ又新家族ニ入ラントスルモノ獨立ノ自主人ナルトキハ降階プログレイシオン降階トハ他家族ニ入り屬從者ノ位地ニ立ツカ爲メニ自主權ヲ有スル資格ヲ失スルヲ云フナル式ヲ用ヒタリ此式ハ古代ニアリテハ唯獨リ民會キユリアタニ於テ

投票ヲ以テ之ヲ行ヒタリ蓋シ斯ル事項ヲ以テ公安ニ關スル事柄ト民會ノ議ニ付シタル者ナリ而シテ其所以ハ其宗族ノ末葉ニ至リ安リニ自身ヲ降階シ遂ニ其祖宗ノ血食ヲ失ハンコトノ恐レアルヲ以テナリ降テ近世ニ至リ降階家族解散及養子ノ方式ヲ履行スルニ單簡ナル方法行ハレタリ而シテシヤスチニアン帝カ制定セシ法律中ノ重要ナル變遷ノ一ハ養子^{アドプシオン}ノ性質ヲ變シ養子ヲ取ラントスル者其尊屬親ニアラサルヨリハ其養子ハ自然ノ家族^{親血族}ヲ脱セサルモノトナセシ一事ナリ

講者曰「アロゲーシオン」并ニ「アドプシオン」ノ差ハ自主權ヲ有セサル者他家族員タラントスル時用ユル式ヲ「アドプシオン」ト云ヒ或家族ノ家長若クハ自主權ヲ有スル者他家族ノ養子トナラントスル時用ユル式ヲ「アロゲーシオン」ト云フ然レトモ均シク養子ノ意義ヲ表ス

後見人及
補佐人

ルモノナリ

第四十三節 後見人及補佐人

自主人ニシテ各種ノ權利ヲ有スルモノト雖トモ或缺質ヨリシテ其有
スル權利ヲ使用シ能ハサルコトアリ譬ヘハ小兒ハ啻ニ自己ノ判斷ヲ
以テ自己ノ行爲ヲ管理シ能ハサルノミナラス諸取引ヲナスニ當リ必
要ナル方式ヲ陳述シ又ハ理會シ能ハサルヘシ故ニ後見人ナルモノヲ
指定シ孩兒ノ能婚年齢ニ達スル迄之ヲ監督保護シ其缺質ヲ失ハシム
ルモノトス而シテ凡ソ後見人タル者ハ皆其被保護者人格ノ缺典ヲ補
ヒ一切ノ管理ヲ爲スヘキモノトスルハ是レ後見人ニ關シテ羅馬人カ
有スル思想ナリ蓋後見人ハ孩兒ノ身體并ニ財產ヲ管理スルト雖トモ
是レ單ニ後見人タル資格ノ從務ニシテ其本然ノ職務ハ被保護者人格
ノ缺典ヲ補フニアリトス又古代ノ法律ニ於テ未婚ノ婦女ハ年ノ老幼

正系親族

ナ問ハス其親族ノ後見ヲ受ケテ保護セラル、モノトス且自主人ニシテ
 其有スル權利ヲ使用シ得ル年齢ニ達シタリト雖トモ尙其權利ヲ使用
 スルニ當リ自己及家族ヲ害スルノ恐ナキニ非サルヲ以テ補佐人ヲ撰定
 シ其人ノ財産ヲ監督セシム故ニ後見人ト補佐人トハ其職務大ニ異ナ
 リトス學術上ノ語ヲ以テ云フトキハ後見人ハ身體上ニ關シ補佐人ハ
 財産上ニ關シ被保護者ヲ保護支配スルニ在リ要スルニ補佐人ハ唯金
 錢上ノ損失ヲ防ク爲メニ設クルモノニシテ能婚年齢ニ達スルモ二十
 五歳以下ノ人并ニ濫費者狂瘋者等ノ利益ヲ管督セシムル者トス

第四十四節 アグナシカ **正系親族** （血縁親ニアラス羅馬固）
有法上ノ一親族ナリ

一家長ノ權内ニアルモノハ其家長ノ權ニ服従スルノ緣因ニヨリテ相
 結合セラル、モノナリ此緣因ヲ稱シテ正系親族ト云フ而シテ斯ノ如
 ク相互ニ結合スル各家族員ハ相互ニ親族者ニシテ假令家長死没スル

宗族者親
族者及姻
族者

モ尙ホ親族ノ縁因存在ス而シテ家族員中其家族ノ死ニ因テ自主人タ
ルモノハ即チ新家族ノ首領トナルト雖モ尙ホ家族放解散養子又ハ女子
ノ場合ニ於テハ婚姻ニ依テ該家族チ脱却スルコアラサル以上ハ各人
相互ニ親族者タルナリ之レチ要スルニ原家長若シ久シク其生命チ保
チシトキ相互ニ親族者タルヘキモノハ其家長ノ死後幾多ノ星霜チ經
過スルト雖モ尙ホ親族者タルナリ故ニ斯點ヨリ見ルトキハ夥多ノ家
族ト雖モ互ニ其宗祖チ同シクスルカ爲メニ互ヒニ親族者タルノ縁因
チ有スルチ以テ又一家族チ組織セシナリ何トナレハ即チ此等數多ノ
家族員ハ既ニ死去セシ家長ノ家族ノ枝葉末派ナレハナリ

第四十五節 ゼンチーアグナダイ 宗族者親族者及姻族者

古代ノ貴族バトリシアンハ親族ノ一範圍アグナダイノ外又宗族ゼンスノ一範圍チ有セリ而シテ此宗
族ノ關係ハ單ニ血縁ニ依リテ關係アルモノヨリモ一層親密ナル者ト

ス故ニ若シ一貴族親族者ナク又遺囑ナクシテ死去スルトキハ宗族タル人即チ宗族者其相續人トナレリ去レハ宗族者ハ自然ノ親族即チ血族者ト正系親族者トノ範圍ノ中間ニ位スルモノナリ而シテ平民ハ平民宗族ニ屬セサルトキ及貴族ハ宗族ノ組織消滅シタル時代ニ於テ血縁ノ關係ハ正系親族ノ關係ノ次ニ位スルモノト認定シタルナリ
 凡テ血縁ノ縁因ニ依リテ結合セラル、モノハ之ヲ血族親ト稱ス顧フニ晚世羅馬法制ノ傾向ハ血族親ニ漸次重大ナル價格ヲ與ヘ以テ家族關係ノ自然組織ヲシテ人爲組織ニ易ハラシメントスルニ在リ而シテ配偶者雙方ノ血族親ハ其相互ノ間ニ於テ姻族ト稱スル關係ヲ有スル者ナリ

婦ノ地位

第四十六節 婦ノ地位

吾人ハ婦タルモノハ恰モ常ニ其夫ノ權内ニアルカ如ク論セリ是レ蓋

羅馬家族ニ關スル嚴格ナル理論及古代ノ慣例ニ於テハ其實チ得タル者ナラン
 貴族ノ婚姻ニハ「コンファリエーシオ」ト稱スル儀式ヲ用ヒタリ此儀式ニ臨席シ得ルモノハジャスカラム宗教法ノ特權チ有スル人ニ限り其他ノ人ハ決シテ之レニ臨ム能ハサリシ而シテ只此ノ儀式舉行ノ一事チ以テ婦タル者ハ其夫ノ權内ニ屬セシモノトセリ平氏中ニハ婚姻ニ一定ノ儀式ナシ單ニ男女相結婚シ以テ婦チシテ夫ノ權内ニ歸セシメントスルニハ婦ノ父其女ヲ夫トナルヘキ人ニ「コイエムプシチ」ト稱スル賣買式ニヨリテ賣渡スモノナリ又婦女一年間其夫ト同居シタルトキハ「ユーサス（經時効）」ニ依テ婦ハ其夫ノ權内ニ歸スル者トス然レトモ婦女若シ一年ノ中ニ三連夜夫ノ家ニ在ラサルトキハ其夫ノ權内ニ歸スルチ妨クル者トス然レトモ平民ニ在リテハ恐ラクハ何レノ時代ニ於テモ男女相

婚シ而カモ其婦ハ其夫ノ權内ニ歸セサルコトヲ得タルカ如シ而シテ此方法ハ遂ニ近世婚姻ノ正則トナルニ至レリ蓋其婦カ其夫ノ權内ニ歸スルト歸セサルトハ家族ノ關係ニ於テ差異ヲ生スルコトナシ去レハ若シ夫婦タラント欲スルモノ婚姻權ヲ有スルトセハパトリアボテスダス家長權ノ如キ婚姻ニ依テ生スル所ノ結果ハ皆其婚姻ニ附着スルモノナリ

若シ夫レ男女正統ノ婚姻式ヲ履行セスシテ永々ノ結合コンキエヒチトダス(即チ妾ヲ云フ

ヲ爲シ其間ニ小兒ヲ擧クルトキハ其小兒トチユラレスリベライ私生ノ子トス而シテ此等

ノ小兒ハ晚近ノ法律ニヨリレヂチマシヨ一(私生ノ子ヲ正當ノ子トナス手續ナリ)ト云フ

手續ヲ用ヰテ正當ノ婚姻ヨリ生シタル小兒ト同一ノ地位ニ立タシム

ルヲ得コンスタンチン帝以後ハ此等ノ小兒ハ其兩親カ該兒出生後ニナシタル正當婚姻ニ依リ法律上正當ノ小兒トナスコトヲ得タリ其他法律上正當婚姻以外ノ方法ニ依リテ男女結婚ヲナシ其間ニ生レタル小

少身分ノ減

兒ハ總テ其母ノ資格ヲ襲承スルモノナリ譬ヘハ其母自由人ナルトキハ子女モ亦自由人ナリ其母奴隸タルトキハ小兒モ亦奴隸タルカ如シ奴隸ノ結婚ハ之ヲ「コンチユーバルニアム」ト云フ而シテ此ノ結婚ハ假令ヒ嚴肅ナル儀式ヲ用ヒ又ハ信實ナル自然ノ結縁タルニセヨ法律ノ眼ヲ以テ觀ルトキハ野合私通ト毫モ異ナル所ナシ

第四十七節

身分ノ減小

完全ナル身分ヲ有スル人ハ其身分ヲ變更スルコトヲ得可シ而シテ其變更ハ身分ヲ組織スル三元素中ノ一ニ付キテ生シ得ル者ナリ(身分ノ三元素トハ第一自由ナルコト第二府民ナルコト第三家族員ナルコト是ナリ)

完全ナル身分中ニ含蓄スル權利ヲ使用スル能力ヲ稱シテ人ノ有スル身分權實行ノ能力ト云ヒ此ノ組織元素ノ一ニ於テ起ル變更ヲ稱シテ

身分^{デミニシオ、カビテス}權實行能力ノ減少ト云フ

今身分ニ起ル所ノ變更ヲ舉クレハ

第一 人ハ其自由ヲ失フコトアリ例セハ敵ノ虜囚トナリ或ハ嚴刑ニ

處セラル、時ノ如シ此身分ノ元素ヲ亡失シタルコトヲ稱シテ身分ノ

太滅ト云ヒ此ノ元素ノ損失ハ他ノ二元素ヲ併損スル者ニシテ即チ自

由タルノ身分ヲ失ヒタル人ハ又府民タルノ權利并ニ家族タルノ權利

ヲ併セテ失フモノトズ

第二 府民タルノ權利ヲ失フコトアリ此損失ヲ稱シテ身分ノ中減ト

云フ而シテ府民タルノ權利ヲ失フトキハ家族タルノ權利ハ從ヒテ之

ヲ失フ者タリ然レトモ自由タルコトノ權利ハ之ニ由リテ損失スル者

ニアラス

第三 家族^{エマンシペーシヨ}解散或ハ養子^{アロゲーシヨ}ニ依リテ家族員タルノ權利ヲ失フコトアリ

此損失ヲ稱シテ身分カレテステミニユシオカミニマノ小減ト云フ古代ニ在リテハ重モニ宗數シヤスサクラム法ノ部

分ニ屬スル所ノ權利アリテ人若シ其家族ヲ脱スルトキハ直チニ此ノ權

利ヲ失フモノトセリ然レトモ後世ニ至リテハ身分ノ小減ヲ受ケシ所

ノ人ト雖モ或ハ他家ニ入り或ハ自家々族ノ長トナルヲ以テ其實變更

ノ爲メ毫モ身分ヲ減却スルコトナシ而シテ第三ノ身分ノ變更ハ身分

ノ第一第二ノ元素ノ損失ヲ來サ、ルハ論ヲ待タサルナリ

第四十八節 名譽

完全ナル身分ヲ有スル人ハ他人之ヲ目シテ高貴名譽ノ人物ナリトセ

リ羅馬語ニテ其名譽ヲ稱シテ「エキジスナメーシヨ」ト云ヒ羅馬人ハ之

ヲ以テ各人ノ重要ナル所有ノ一トシ之ヲ尊重スルノ極多少法律ヲ以

テ之ヲ規定スルニ至レリ

人其自由ヲ失フトキハ其名譽モ亦共ニ之ヲ失フモノナリ又法律ハ或

人ノ生存
ノ終局

種ノ犯罪アルトキハ名譽ヲ毀傷スルモノト定メタリ而シテ若シ其犯罪ニシテ名譽ヲ毀傷スルコト甚大ナルトキハ爲メニ生シタル名譽ノ減少ヲ稱シテ公^{インフアミア}ノ耻辱ト云フ例セハ組合商人又ハ受托人等組合上ノ訴訟或ハ委托上^{コンテイト}ノ訴訟ニ於テ處斷セラレタル時ノ如シ今此ノ公ノ耻辱ノ結果ヲ考フルニ犯罪者ハ投票權公ノ榮譽ヲ受クルノ權公訴ヲ提起スルノ權等ヲ剝奪スルモノトス然レトモ若シ其犯罪輕少ナルトキハ其結果ヲ稱シテ「タルピチユード」ト云フ而シテ若シ其犯罪者俳優等ノ如キ下等ノ地位ニ立ツ者ナルトキハ之ヲ稱シテ「レビスノータ」ト云フ即名譽ノ微瑕ト云フ義ナリ

第四十九節 人ノ生存ノ終局

己上論述スル所ノ者ノ外尙ホ吾人ノ注意ヲ要スルモノ一アリ即會社等ノ如キ特ニ法律ノ効力ニ依リ制作セラル、所ノ人ハ如何ナル方法

チ以テスルヲ問ハス法律カ其會社ノ存在チ止滅スルトキハ會社ハ其時ヨリシテ生存チ失フタルモノトス然レトモ一個人ノ場合ニ於テハ自然ノ人體ハ死去スルモ法律上ヨリ觀レハ其人ノ死チ以テ其人全ク消滅シタリトセス蓋其人ノ死スルヤ其瞬間ニ於テ直チニ其人ノ法律上ノ資格ハ其人チ代表スル人ニ移轉スレハナリ之チ別言セハ子タルモノハ其父ノ法律上ノ資格チ負擔シ相續人ハ遺囑者ノ資格チ負擔スルカ故ニ一己人ノ死チ以テ未タ遽カニ其人全ク消滅シタリト爲スチ得ス羅馬ノ法律家ハ死亡者代表チ説明シテ曰ク死亡者ノ法律上ノ資格ハ其之チ相續スル人ニ移轉スルモノナリ

第二章 物^レチ論ス

第五十節 物ナル語ノ用法

羅馬法ニ於テ物ナル語ハ人ナル語ト同シク廣濶ニシテ且故造ノ意義

物チ論ス
物ナル語
ノ用法

有スルモノナリ例セハ羅馬法ニ於テ人トハ權利ヲ有シ及權利ニ屬
 從ス可キ者ノ總テ法律上ノ人ヲ含蓄スル如ク物トハ總テ權利ノ目的
 タル所ノ物件ヲ含蓄スルモノナリ而シテ權利ノ目的タルモノハ無形
 即全ク法律ノ創制ニ係ルモノモアリテ單ニ有形ニシテ肉眼以テ見得
 可キ物ノミニ限ラサルナリ例セハ法律ハ田野ヲ占有スルノ權利及其
 地ヲ通行スルノ權利ノ目的ハ均シク之ヲ物ト稱スルナリ吾人ハ此等
 ノ權利ノ目的タル物ヲ區別セント欲スルニ當リ其分類ニ必要ナル一
 定ノ主義ヲ檢出スルコト能ハス蓋權利ノ目的物ハ之ヲ考察スルノ方
 法種々ナルヲ以テ單一ノ方法ニ據リテ彙類ヲ爲サント實ニ難シ然
 レトモ左ノ區別ニ依リ第一ニ物ノ性質ヲ檢定シ其異同ニ基ク所ノ種
 類第二ニ人カ物ニ就テ有スル利益ニ基ク所ノ種類是レナリ

第五十一節

有形物無形物ノ區別

凡ソ物ハ有形ナルアリ或ハ無形ナルアリ即チ法學家ノ言チ用フレハ
「タンヂボスサント」感觸ス可キ物ナルアリ或ハ「タンヂノ」ボスサント」
(感觸ス可カラサル物)ナルアリ例セハ家屋田野ハ吾人ノ眼ヲ以テ之ヲ
視ルコトヲ得ルト雖モ家屋ニ住スヘキ權利又ハ田野ノ果實ヲ收穫ス
ルノ權利ハ之ヲ見ルコト能ハサルナリ要スルニ人間ノ智覺ヲ以テ感
觸シ得可キモノハ即有形物ニシテ感觸シ得可カラサル腦裡ノ想像ハ
即無形物ナリ而シテ無形物ハ常ニ權利ニ於テ成立スル者ニシテ河ノ
流動スルヲ見道路ノ原野ニ迂曲スルヲ見ルトキハ吾人ハ感覺上ノ目
的物トハ相異ナル所ノ水ヲ使用スルノ權力及道路ヲ通過スルノ權力
ヲ想像シ得可シ此權力ヲ法律上稱シテ無形物ト云フ而シテ各人ハ一
家或ハ一田ヲ所有シ得ル權利ヲ有スルト同シク無形物ヲ所有スルノ
權利ヲ有スルコトヲ得可シ之ヲ嚴密ニ言ヘハ田野ノ如キ場合ト雖モ

法律ノ認視スル所ハ田野其物ニアラスシテ田野ヲ所有スルノ權利ナ
 リトス即此ノ權利ハ田野ヲ行通スルノ權利ト等シク無形物ナリ然レ
 トモ羅馬法ハ世人ノ通常ニ談話スル方法ニ倣ヒ余ハ田野ヲ有ストカ
 余ハ田野ノ上ニ於ケル行通ノ權利ヲ有ストカ稱セリ

第五十二節 動產不動產ノ區別

吾人ハ又有形物ヲ區別シテ動產及不動產ノ二種トス之ヲ羅馬語ニテ
 「レスモビイル、シト、モベンテス」及「レス、ソリ、レス、イムモビイルス」ト云フ
 此區別タルヤ實ニ明了ナル者ニシテ殆ト之カ解釋ヲ要セサルカ如シ
 然レトモ唯一ツノ注意ス可キ點ハ或ル動產ハ常ニ不動產ト結合シ法
 律上不動產ト認定サル、コト是ナリ假令ハ家屋ノ如キ其屋上ノ瓦ハ
 箇々ニ之ヲ視ルトキハ動產ナリト雖モ其家屋ハ即不動產ナリ何トナ
 レハ其土地ニ附着スルヲ以テナリ

可分物不可分物ノ區別

第五十三節 可分物不可分物ノ區別

物ハ又分割シ得ヘキ物及分割シ得可ラサル物トノ二種アリ譬ヘハ吾人ハ奴隸或ハ馬ヲ分割スルコト能ハス何トナレハ此等ノ物ハ之ヲ分割スルキハ至ク之ヲ分割セサル前ノ價值ヲ有スル能ハサレハナリ然レモ吾人若シ一田ヲ有シ之ヲ四部ニ分割スルキハ即チ吾人ハ四個ノ小田ヲ有スルモノニシテ此等ハ分割シ得ヘキ物トス

主物及從物ノ區別

第五十四節 主物及從物ノ區別

物ニ又主タル物從タル物トノ區別アリ主タル物トハ直接ニ權利ノ目的タルモノニシテ從タル物トハ直接ニ權利ノ目的タル物ノ一部分たり又ハ之ニ親密ニ附着スル物ヲ云フ例令ハ樹木ノ如キハ主タル物ニシテ其之ニ生スル菓實ノ如キハ即チ從タル物ナリ

第五十五節 族類ノ區別

族類ノ區別

物ニ又「ジーナス」(族)及「スベシース」(類)ノ區別アリ「ジーナス」(族)トハ物ノ全體ヲ意味スルモノニシテ即チ馬ト云カ如キ或ハ物ノ普通ノ名稱即チ酒、油、麥、ト云フカ如キ是ナリ「スベシース」(類)トハ或全體物中ノ一部若クハ「ジーナス」(族)中ニ含蓄スル物ノ一部ヲ意義スルコトアリ即チ此馬或ハ此瓶中ノ酒ト云フカ如キ格段ナル部類ヲ指シテ云フ左レハ馬或ハ油若干ヲ購求スルコトヲ約スルキハ其馬又ハ油ハ「シエチレ」ニ依リ決定セラル、モノト云ヒ又若シ格段ナル馬或ハ瓶中ノ油ヲ購求シタルキハ之ヲ稱シテ「スベシ」ニ依テ決定セラル、モノト云フ凡ソ油又ハ麥等ノ如キ普通ノ名稱中ニ抱括スル物ハ皆度量衡ヲ用ヒテ之ヲ分割シ得ルヲ以テ「羅馬」法律家ハ此等ノ物ヲ指シテ量リ數ヘ又ハ度ルヘキト云ヘリ(即チ「羅甸語」ニテ「クオーポンド」ニ「メロメニスラベ」コンスタントト云フ)

單獨物及
集合物

第五十六節 單獨物及集合物

神聖物

吾人ハ最後ニ物ヲ區別シテ單獨物又ハ集合物トス集合ニタル物ヲ以テ法律上之ヲ一箇物ト看做スモノヲ集合物ト云フナリ即チ羊ハ一箇ノ單獨物ニシテ之ヲ羅馬語ニテ「レスシンギユラレス」(單獨物)ト云ヒ群羊ハ集合物ニシテ之ヲ羅馬語ニテ「リラムユニバルシタス」(集合物)又ハ單ニ「ユニバルシタス」ト云フ彼ノ世襲財産及婚姻財産ノ如キハ勿論集合物ナリトス

第五十七節

神聖物レスサクラ

吾人ハ物件所有ノ權利ヲ有スル人ニ關シテ物ノ第二ノ區別ヲ爲スニ方リ先ツ神聖ナル性質ヲ有スル物ノ區別ヲ叙セント欲ス即チ神聖ナル性質ヲ有スル所ノ物ヲ神聖物ト云ヒ天神ニ供スル所ノ物品是ナリ又墓或ハ埋葬地ノ如キ之ヲ宗教物ト云フ地祇ニ供スル物是ナリ其他「レスサンクヌ」ト云フモノアリ即チ人間世界ノ物ナレトモ之ニ神聖ナル

性質ノ附着スルモノアリ城壁或ハ城門ノ如キ是ナリ

第五十八節 「アゲルローマナス」

又政府ヨリ或物ニ格段ノ性質ヲ有セシムルコトアリ即チ外國人ノ所
有ニ係ルモノヲ稱シテ「ペレグリナ」ト云ヘリ而シテ古代羅馬ノ範圍内
ノ土地即チ「アゲルローマナス」ハ特リ保證賣買ノ目的タルコト得及羅
馬固有法上格段ナル制度ニ由テ所有セラル、コトヲ得ルモノニシテ
他ノ土地トハ大ニ異ナルモノトス後世ニ至テハ伊太利國土ノ大半ハ
「アゲルローマナス」ト同一ニ取扱ハル、ニ至レリ而シテ「ソラム、イタカ
ム」ハ古代ノ所謂「アゲルローマナス」ノ特權ヲ有スル土地ノ總稱トナリ
「ソラム、プロビンシアル」土地ト相反對スルモノナリ「ソラム、プロビンシ
アル」ハ理論上政府ノ財産ニシテ一個人タルモノ決シテ十分ナル所有
權ヲ有スルコト能ハサル物ナリ而シテ此等ノ土地制度ハ實際ダイオク

「レス、マンシパイ」

レシアン帝ニ至リ廢セラレシヤスチニアン帝ニ至リ名實共ニ全ク廢棄セラレシモノナリ

第五十九節 「レス、マンシパイ」

「レス、マンシパイ」及「レスチツクマンシパイ」ハ古代ノ法律中ニ行ハレタル區別ナルカシヤチニアン帝ニ至リ全ク廢滅セラレタリ吾人ハウルピアン氏ノ文書ニ就テ「レス、マンシパイ」トハ如何ナル物ヲ指スカチ知リ得ルナリ蓋「レス、マンシパイ」トハ田舎ト都府トチ間ハス凡ヘテ農業ノ具ニシテ法律上特別ノ保護ヲ受クル物ヲ云フ例セハ奴隸牛馬等ノ如キ即チ是ナリ其他農業ノ具ニアラスシテ法律上特別ノ保護ヲ受ケサル物ハ皆之ヲ「チツク、マンシパイ」ト云フ而シテ「レス、マンシパイ」ニ於ケル所有權ハ獨リ「インシユレセスシオ」及「マンシペーシヨ」
（賣買ノ式第
七十三節第
八十一節）
ノ法式ヲ以テ之ヲ讓與賣買シ得ルモノニシテ即チ買者ハ
參看ヘスシ

購求セント欲スル物品ヲ受取り自己ノ所有ナルヲ宣言シ然後銅塊
 ナ以テ秤量ヲ打チ之ヲ賣者ニ渡シ賣買讓與ノ式ヲ行フヲ云フ蓋シレ
 ス、マンシパイノ財産ハ古來農業社會ノ占有シタルモノニシテ此社
 會ニ於テ右財産所有權ヲ移轉スルニハ常ニ右ノ方式ヲ用ヒタルコト
 亦疑チ容ル可ラス古代農業社會ノ所有權ト他ノ財産トハ相對照スル
 ニ甲ノ場合ニ於テ慣習タル讓與賣買ノ方法乙ノ場合ニ於テ或ハ慣習
 ナラサルヲアリシ然レヒ其時代及方法ノ如何ハ今日ヨリ之ヲ詳ニス
 ル能ハス斯カル慣習ハ漸次法律ノ認採スル所トナリ從テ法律上レス
 マンシパイ所有權ヲ移轉スルニハ必ス「マンシパイ」ノ法式ヲ要シ其他
 ノ物件讓與賣買ニ此式ヲ要セサルトナリシモノナリ
 「マナス」トハ權力ヲ意味スル語ナルカ惟フニ是レ「マンシパイ」及「マンシ
 ペーシオ」ナル二字ノ根源ナラン「レス、マンシパイ」トハ其始メ所有者ノ

共有物及
私有物
無所
有者物件

手中ニ存スル物品又ハ所有者ノ手ヲ以テ得タル物品ヲ意味スル者ニシテ讓與賣買ノ際買主手カラ物品ヲ請取ルヲ要スルハ蓋シ賣主カ始メ其物件ヲ所有シタル方法ニ倣フヲ表スルモノナリ

第六十節

共享物及ヒ

私有物、私有スヘキ物、無所有者物件

若シ夫レ所有ノ點ヨリシテ物件ヲ觀察セハ左ノ區別アル可シ例ヘハ海或ハ空氣等ノ如キ一個人ノ私有シ能ハサルモノ之レヲ「レス、コンミユチス」共享物ト云フ公有物「レス、パユブリカ」トハ政府ノ所有ニ屬スルモノニシテ航河、道路、國土等（エーヂャルロブリカス）ノ如キモノチ指シ會社等ノ如キ集合体ノ所有物ヲ「レス、ユニヴエル」シタチス「共有物ト云ヒ一個人ノ私有ニ屬スルモノチ「レス、プリヴエター」私有物ト稱ス而シテ此等ノ物件ハ即チ一個人ノ所有シ得ベキモノニシテ羅馬語ニテ之レヲ「イン、ノストロ、パトリモノオ、レスニユリアス」ト云フ之レニ反シテ共享物公有物及ヒ神靈ニ供シ

權理及
其區別

タル物品ハ一個人ノ私有シ得ヘカラサルモノニシテ羅馬語ニテ之レ
 ナ「エキストラ、パトリモニアム」ト稱ス最後ニ無所有者物件トハ猛獸或
 ハ海中ノ鳥嶼ノ如キ所有者ナキモノヲ指スナリ

第六十壹節 權利及ヒ其區別

以上羅馬法ニ於ケル人ノ地位及ヒ物ノ區別ニ付キ其概畧ヲ論述シタ
 ルヲ以テ吾人ハ是レヨリ進テ人及ヒ物トノ間ノ關係ナル權利ト稱ス
 ル所ノモノヲ論究セント欲ス

抑々人類生存ノ地位ハ自然其力ヲ以テ物件ヲ支配スルノ必要ヲ感セ
 シムルモノニシテ財産ノ如キハ其昔種屬或ハ一團結ニテ之レヲ所有
 シ次ニ家族ニテ之レヲ所有シ而シテ最後ニ一個人ニテ之ヲ所有セシ
 モノナリ而シテ社會漸次ニ進歩シテ最後ノ位置即チ一個人財産ヲ私
 有スルノ域ニ達スルニ及テ所有主ハ其財産ニ關シ特別ノ利益ヲ有シ

他人ハ毫モ之レニ干渉スルコトヲ得サラシムルニ至レリ而シテ此ノ所有主ハ或ハ法律ノ制裁ニ依テ直接ニ其權利ヲ伸張シ他人ニ對シテ其占有物件ヨリ生スル利益ノ享得ヲ爭ハシメサルコトヲ主張シ或ハ又間接ナル場合アリ例ヘハ權利者ハ一人又ハ數人ニ對シ或ル物件ヲ所有センコトヲ請求シ又ハ勞役約束履行損害賠償等ヲ主張スルカ如キ即チ是レナリ而シテ斯ノ如キ權利ハ最初ヨリ格段ニ指定シタル人ニ對シテノミ主張スルヲ得ルモノニシテ廣ク社會一般ニ對スル權利ニ非ラス

以上記載スル所ノ區別ヨリシテ所謂對世權トノ對人權ト區別ヲ生シタリ蓋シ此ノ區別ハ羅馬ノ法律家カ其著書中ニ用ヒタル「ジュラ、イン、レ」及ビ「ジュラ、アドレム」ノ區別ニ倣フモノニシテ後世註釋家ノ所謂「ジュラ、イン、レム」トハ廣ク社會公衆ニ對シテ有スルノ權利ニシテ之ヲ對

世權ト云ヒ「ジユス、アトレム」正シク云ハ、即チ「ジユス、イン、パルソナム」トハ社會中ノ格段ナル一個人ニ對スル權利ニシテ例ヘバ他人チシテ或ル物件ヲ與ヘシメ或ル事ヲ爲サシメ又ハ爲サバラシムル如キ之レチ對人權ト云フ而シテ對人權中ニハ人ナル思想ヲ措テ問ハサルヲ得サルヤ明シ如何トナレハ若シ人アリ此物ハ我有ナリト云フモ之ヲ拒ムノ人ナクンハ其所有ヲ爭ハント欲スト雖モ得ヘカラサレハナリ對人權中ニモ亦物件ノ思想ナカル可ラス如何トナレハ權利ノ目的ハ則チ物件ニシテ所有者ノ之ヲ與ヘ或ハ得或ハ爲シ或ハ爲サ、ラシメントスル所ノモノナレハナリ斯ノ如ク對世權及ヒ對人權ニ關シ錯雜ノ嫌ナキニシモ非ラスト雖モ其主要ノ原理ニ至ツテハ實ニ單簡明白ナルモノニシテ良シヤ此ノ法典或ハ有名ナル法律家カ採用シタル組織ノ如キハ其當ヲ得サルニセヨ彼輩カ實際ニ就テ人及ヒ物件ノ種々ノ

物上權

「ドミニウム」

關係ヲ示シタル類別ノ方法ニ至ツテハ實ニ今日吾人ノ採ツテ以テ摸範トナスニ極メテ適當ナルモノト謂ハサルヲ得ス

第三章 物上權

第六十二節 「ドミニウム」所有權

物上權ノ最モ完全ナルモノハ法律上有効ト認ムル名義ニ依テ該物件ヲ所有シ己レノ隨意ニ之レヲ讓與賣買シ得ルノ權力ヲ云フ即チ專有者ニ屬スルモノニシテ羅馬法律ニテハ此所有權ヲ表スルニ「ドミニウム」或ハ時ニヨリ「アロプリエタス」ノ語ヲ用ヰタリ而シテ「ドミニウム」ノ權ヲ有スル人ハ其物件ヲ使用シ之レヨリ生スル所ノ一切ノ収獲ヲ享用シ且ツ其物件ノ性質消盡スベキモノナルキハ全ク之レヲ消費スルヲ得ヘキ而已ナラス其欲スル所ニ隨ツテ之レヲ賣買讓與シ得可キ權利アルモノナリ往古ノ私法ニテハ此ノ所有者ヲ「エツキス、ジユール、キ

リシナム「所有者ト稱セリ而シテ古代ノ法律ハ」エツキス、ジユール、キリ
 シナム「權ノ外」又一ノ「ドミニナム」權ヲ認メサリシ然リト雖モ羅馬外
 國奉行ハ所有權トシテ有スヘキ凡テノ利得ヲ所有者ニ附與セムヲチ
 希望シ其之レヲ附與スルノ機會ヲ得タリシモ羅馬固有法ハ適法ノ所
 有權ヲ附與スルヲ許サザリシヲ以テ他ニ「ドミニナム」ノ一種ヲ創設
 スルニ至レリ是レ則チ「イン、ボコス、ハベール」ト稱スルモノニシテ此所
 有權ヲ有スル人ハ外國奉行ノ職權ニ依テ保護サル、カ故ニ實際ハ專
 有者タリシモ理論上「エツキス、ジユール、キリシナム」所有權トハ同一ノ
 モノニアラサリシナリ世ノ註釋家ハ此新設ノ所有權ヲ「ドミニナム、ボ
 ニタリナム」ト稱セリ然レモ是レ法理家ノ用井タル語ニ非ス蓋シ「ドミ
 ニナム、ボニタリナム」及ヒ「エツキス、ジユール、キリシナム」兩所有權ノ區
 別ノ如キハジャスチアン帝ノ時代ニ至ツテ全ク消滅シタリ

第六十三節 「ポツセツシヨ」(占有權)

「ドミノアム」ト「ポツセツシヨ」トハ其意義相反スルモノニシテ例ヘハ
 甲某ハ一物件ノ所有者タルモ之レヲ占有セサルコアリ又其所有者ニ
 アラサルモ之レヲ占有スルコアリ夫レ占有トハ形体上現ニ物件ヲ占
 領即チ法語ニテ押領スルノ意ナリト雖厄羅馬ノ法律家が用井タル字
 義ニ依レハ猶ホ多少ノ意味ヲ含蓄スルモノニシテ單ニ事實ノミナラ
 ス猶ホ意思ヲモ含蓄セシメ獨リ物件ハ占有者ノ配下ニ屬スルト云フ
 コノ事實ノミナラス猶ホ占有者ハ之レヲ占有シテ眞ノ所有者カ得ル
 如キ利益ヲ得ント欲シ且ツ自ラ眞ノ所有者タルノ權利ヲ有セサルコ
 ナ知リツ、眞ノ所有者ト同一ノ權利ヲ執行センコト望ムノ意ヲモ含
 蓄スルナリ而シテ占有者ハ眞ノ所有者ヲ除キ總テ其他ノ人ニ對シテ
 該所有ノ保護ヲ受クヘキ權利ヲ有シ加之ナラス久シク物件ヲ占有シ

テ法律上ニ定メタル期限ヲ經過スルキニ於テハ占有者終ニ其物件ノ眞ノ所有者トナリ得ルナリ

第六十四節 「セルビチユーテス」(地役權)

物上權ハ其數甚々夥多ナルカ故ニ之ヲ分割シテ其一部ヲ甲ニ與ヘ他ノ一部ヲ乙ニ附與スルコトヲ得例ヘハ田野通行ノ權ト地下穿堀ノ權トヲ分割シ通行ノ權ヲ甲ニ與ヘ穿堀ノ權ヲ乙ニ附與スルノ類ヲ云フ夫レ斯ノ如ク分割タシル各權利ハ全「ドミニウム」權ノ一片ト見做ス可キモノニシテ「ドミニウム」權所有者ハ之レヲ他人ニ附與シ得ルナリ是等ノ分割權利即チ之レヲ反言セハ專有ノ所有權ニ抱括スル全權利ノ各部分ヲ「セルウイチユウテス」(地役權)ト稱ス如何トナレハ此場合ニ於テ物件ハ分割權ヲ利用スルノ權利ヲ有スル人ニ隸屬スルヲ以テナリ地役權ノ或ル場合ニ於テハ所有權ヲ分割シタル其物件ノ物上權他ノ

物件ノ所有權ニ附屬スルコトアリ此地役權ヲセルウイチユウテス、レラ
ム又ハ「プロヂチラム」ト稱ス而シテ又此地役權ヲ區別シテ二種トシ土
地通行權等ノ如ク土地其物ニ關スル分割權ヲ「ラスチコラム、プロヂチ
ラム」ト云ヒ家屋建築物等ノ基礎トシテ土地ニ係ル分割權ヲ「ウルバノ
ラム、プロヂチラム」ト稱ス他ノ場合ハ則チ特別ノ人ヲ限リテ地役權ヲ
附與スル時コシテ之レヲ「セルウイチユウテス、ベルソナラム」屬人地役
權ト云ヒ此分割權ノ最モ樞要ナルモノヲ「ユトサス」フラクダス「収實權」
及ヒ「ユトサス」使用權ノ二種トス「ユトサス」フラクダストハ他人ニ屬ス
ル物件ヲ享用シ其物件ヨリ生スルモノハ悉ク之レヲ収獲スル入額所
得ノ權ヲ云フ例ヘハ土地ヲ利用シテ悉ク其生産物ヲ収獲スルカ如キ
即チ是レナリ「ユトサス」ハ他人ニ屬スル物件ヲ使用及ヒ利用スル權ニ
シテ其物件ノ生産ヲ収獲スルコトナシ然レモ或ハ其小部分ヲ収獲スル

「アリ右ノ」セルウイテス、プロギナラム」ハ獨リ不動産ニ限ルト
 雖「セルウイテス、ベルツナラム」ハ動産不動産共ニ之レヲ適用
 シ得ルナリ

第六十五節

「インフヒテユ」シス」及ヒ「シュツパーフヒシス」

前節ニ記載シタル諸權利ノ他ニ尙ホ二種ノ物上權アリ其性質タルヤ
 稍々地役權ニ類スト雖「其名稱ヲ異ニセリ即チ第一種ヲ「インフヒテ
 ユ」シス」權ト云ヒ所有者單ニ所有權ノ名ノミナ己レニ存シテ其他ノ
 諸權利ハ一切擧テ永年之レヲ他人ニ讓與シ其報償トシテ年貢ヲ收受
 スルモノナリ第二種ヲ「シュツパーフヒシス」土地表面權ト稱シ家屋建
 築等ニ必要ナル土地ノ表面ヲ他人ニ讓與シテ全シク第一種ノ如ク通
 常年貢ヲ収ムルモノヲ云フナリ

第六十六節 「ヂヤス、ピグノリース」

今最後ニ記載セント欲スル所ノモノハ質入書入等ニ依テ生スル物上
 權ニシテ所謂「ビグナス」(質入)及ヒ「ハイボセカー」(書入質)是レナリ「ビグナ
 ス」トハ物件ヲ其物上權ト共ニ債主ノ手ニ渡スヲ云ヒ「ハイボセカー」ハ
 物件負債主ノ手ニ存スル場合ヲ云フナリ蓋シ此權利ヲ債主ニ附與ス
 ルハ負債辨償ヲ確實ナラシムルノ意ニ出ルモノニシテ債主ハ其預リ
 置キタル物件ヲ賣却シテ貸金辨償ニ充ツルヲ得ルノミナラス果シテ
 買者ナキハ自カラ該物件ノ所有者トナルヲ得ルナリ

第六十七節 物上權ノ領得

吾人ハ今ヨリ物上權領得ノ方法ヲ論辨スルノ域ニ進マント欲スルニ
 當リ先ツ特定ノ物件上ノ權利ヲ領得スルト又遺產ト稱シ死者ニ屬ス
 ル物上權及ヒ對人權ノ集合ヲ抱括スル數物件合體上ノ權利ヲ領得ス
 ルトハ其方法大ニ異ナル所アルヲ以テ余ハ權利領得ノ方法ヲ二種ニ

物上權
 領得

特定物件
上ノ權利
領得

區分シテ順次之レヲ辨論ス可シ即チ第一特定物件上ノ權利ヲ領得スルノ方法第二物上權及ヒ對人權ノ合躰ヲ他人ニ移轉スルノ方法は是レナリ

第六十八節 特定物件上ノ權利領得

特定物件ヲ領得スルノ方法中先ツ第一ニ占領ノ法ヨリ記載ス可シ占領トハ「レス、ニユリアム」則チ所有者ナキ物件ヲ最初ニ押領スルノ意ニシテ例ヘハ領主ナキ土地又ハ野獸等ハ皆「レス、ニユリアス」ナリ故ニ吾人若シ斯ノ如キ土地或ハ野獸等ヲ他人ニ先チ領得スルキハ吾人ハ則チ土地又ハ野獸ノ所有權ヲ得ルナリ

第六十九節 「アクセツシヨ」(増加權)

「アクセツシヨ」則チ増加權トハ自然力ノ活働ニ因リ主タル物件ニ附着増加シテ分離ス可カラサル部分トナリタル物件或ハ人力ヲ以テ一

増加權

物ト他物ヲ合躰セシメ再ヒ分離ス可カラサル性ニ變セシメタル物件ノ物上權ヲ領得スルコトノ總稱ニシテ主タル物件ノ所有者ハ則チ其所有者タルノ德ヲ以テ亦タ増加物ノ所有者トナリ得ルモノトス

第七十節

「トレデー」シヨシヨシ(引渡)

甲者乙ニ對シ一物件ヲ交附スルノ契約或ハ贈與約ヲ爲スノミニテハ未ダ乙チシテ該物件ノ所有主タラシムルニ足ラス猶ホ一段ノ手續ヲ要ス即チ甲ハ契約ノ文面ニ依リ今物件ノ所有主トナルベキ乙ニ對シテ其物權ヲ引渡サ、ル可カラス此引渡手續ヲ「トレデーシヨシ」ト稱スルナリ而シテ完全ナル引渡手續ト云ヘハ第一引渡手續ヲ履行スル人ハ眞正ノ所有主ニシテ其物件ヲ他人ニ交附シ得ルノ權力ヲ有スルコト及ヒ其所有權ヲ他人ニ交附スル意思アルコト第二物件ヲ受領スル人チシテ實際之レヲ所持セシメタルコト第三受領者ハ該物件ノ所有主トナリ

テ之レヲ維持スルノ意ヲ以テ領収シタリト云フヲ含蓄スルモノナ
 リ
 第七十一節 「ギフツ」(贈與)

以上論スル所ハ皆自然領得法ト稱スルモノナリ然レモ單ニ固有法上
 ヨリ其効力ヲ得ル處ノ領得法アリ則チ贈與ニ因リテ權利ヲ領得スル
 カ如キハ其一ナリ嚴密ニ論セハ贈與ハ一種ノ領得法ニアラスシテ寧
 ロ交附スヘキ特別ノ意思ヲ以テ物件ヲ引渡スヨリ生シタル領得法ナ
 リトスギヤフナニアン法典中ニ贈與ヲ以テ一種ノ領得法トナシタル
 ハ恐クハチヤスチニアン帝ノ時代ニ於テ贈與チナスニ嚴格ノ式ヲ履
 ミタルニ原因スルナラシ「ドチーシヨ、モルチス、コーサ」期死ノ贈與ト稱
 スルハ一種特別ナルモノニシテ贈與者己レカ死去チ期シテ贈與チ約
 スルチ云フ而シテ受領者ノ生存中ニ贈與者死去スルキ始メテ其約束

期滿領得
及期滿得
權

ノ効チ生スルモノナリ
第七十二節 「ユーゲユカピチ」期滿領得及ヒ「プレスクリプシ

ヨン」(期滿得權)

又羅馬法ニテハ「ユーゲユカピチ」期滿領得ト稱ヘ他ノ妨害チ受クル
コナク善意チ以テ靜カニ物件チ占有スルコ法律上認定シタル領得法
ニ基ヒスルキ即チ其認定シタル領得法トハ羅馬固有法ニテ動産ナレ
ハ占有スルコ一ケ年間不動産ナレハ二ケ年間ニ及ヘハ全ク其所有權
チ領得スルノ方法アリ蓋シ此ノ「ユーゲユカピチ」ノ動作ハ羅馬法律
中ニテ最モ樞要ナルモノトス如何トナレハ「マンシペーシヨン」羅馬固
有法ノ特別ナル賣買法ニアラサル方法ニ依リ「レスマンシハイ」マンシ
ペーシヨン法ニヨリ賣買スヘキ物チ得タル人ノ權利及ヒ善意チ以テ
物件チ占有シタル人ノ權利チシテ僅カニ數月チ經過スルノ後完全チ

ル「クイリタリアン」權(專有權)ニ變セシムルモノハ全ク「ユーヂユカピチ
 ー」ノ致ス所ナルヲ以テナリ
 「プレスクリフシヨン」(期滿得權)ハ「ギヤステニア」帝ノ時代以前ニ於テ
 ハ權利ヲ領得スルノ方法ニアラス單ニ專有ノ所有者ニアラサル人ニ
 シテ久シク保有シタル權利ヲ恢復センカ爲メニ提出シタル訴訟ヲ拒
 絶スルノ手段タルニ過キサリシナリ蓋シ「ユーヂユカピチー」ノ効力ハ
 凡テノ動産及ヒ伊太利ニ於ケル不動産ニ止マリ毫モ他ノ不動産ヲ左
 右スル能ハサリシヲ以テ各地方ニ於テハ期滿得權ノ方法ヲ不動産ニ
 適用セシカギヤステニア「帝」ハ物件ヲ占有スル期限ノ長短ニ依リ其
 所有權ヲ領得スルコトニ關スル法律ヲ一變シテ一樣ノ法律ヲ全國ニ施
 行シ若シ三年間動産ヲ所持スルキハ占有者其所有權ヲ領得シ不動産
 ナレハ同地方ニ住居シテ十年間之レヲ占有シ若シ他ノ地方ニ居住ス

「イン、ギ
ユール、
セツシヨ
」

合体權利
ノ領得

ルモノハ二十年間之レヲ占有シタル時ハ其所有權ヲ領得シ得ルコト
規定セリ

第七十三節 「イン、ギユール、セツシヨ」

「イン、ギユール、セツシヨ」ト稱スルヒクナシラス陰制ノ訴訟ヲ以テ物件ヲ放棄スル
時ハ其所有權又移轉スルモノトス則チ是レ一種ノ訴訟法ノ名稱ニシ
テ被告ハ少シモ爭ハス原告ノ請求シタルモノヲ速ニ交附スルヲ云フ
又境界ノ爭及ヒ財産分配等ニ關スル訴訟ニ於テ判官其職權ヲ以テ裁
判シテ爭論ノ目的タル物件ヲ原被兩造ニ配當分賦シタルキハ從テ所
有權モ移轉スルモノトス

第七十四節 合体權利ノ領得

全体權利ヲ領得スルハ甲某乙某ノ身分即チ法律上ノ資格ヲ相續シタ
ルキニシテ對世權ト對人權トヲ問ハス總テ權利ヲ傳領ス養子遺囑者

遺囑

遺囑

ノ相續人及ヒ無遺囑者ノ相續人ノ如キハ則チ其適例ナリ蓋シ入籍ノ場合ニテハ甲若シ乙家ニ入籍シタルモハ從來甲ニ屬シタル權利ハ悉ク之レヲ乙家ニ交附シタルモノトス

第七十五節 遺囑

本來遺囑ヲナスニハ「コミシア、キユリアター」古代羅馬ニ於テ全姓共宗人民ノ總集會ヲ云フノ公認ヲ要シ或ハ又陰制ノ賣買方ヲ用ヒテ遺囑ヲナセリ則チ遺囑者ハ其所有物ヲ買者即チ相續人又ハ遺囑者ノ死後其遺志ニ從テ財產ヲ分配スルノ責アル人ニ交附シタルモノナリ降テ後世ニ至リ遺囑ヲナスニハ皆七名ノ保證人ノ目前ニ於テ遺囑書ヲ製シ證人ハ之レニ調印シ且ツ證人及ヒ遺囑者共ニ之レニ署名シタルモノトス加之遺囑ヲ有効ナラシムルニハ必ラス「テスタメンチー」フワクシヨ一チ有セサル可ガテズ蓋シ此ノ語ハ羅馬市民ノ奉スル法律ニ於

相續權ヲ
褫奪スル
コト

テ遺囑ヲナシ之レヲ収領シ或ハ其證人トナリ得可キ人ノ資格ヲ云フ
ナリ

第七十六節

相續權アシエンヘリタンスヲ褫奪スル

遺囑者若シ己レカ權力ノ下ニ屬シタルモノ、中其財産ニ對シ當然請
求ス可キ權アル各自ヲ指名シテ相續權ヲ褫奪スルニ非レハ其作リタ
ル遺囑證ノ全部共ニ空シク無効ニ販スヘシ抑モ羅馬遺囑法ノ一種奇
特ナル所ハ身分相續人ノ制ニシテ身分相續人ノ定メアルコアラサレ
ハ遺囑毫モ其効ヲ奏スル能ハス如何トナレハ法律上遺囑者ノ生存ヲ
繼續ス可キモノナキヲ以テナリ故ニ遺囑ヲナスコハ先ツ初メニ身分
相續人ヲ設ケサル可カラス而シテ身分相續人遺囑者ノ身分ヲ相續セ
ンコトヲ諾スルニ於テハ恰モ其身ヲ遺囑者ノ地位ニ置クモノコシテ凡
テ其所有財産ヲ領収シ併セテ又其負債ヲモ負擔ス可キ責メアルモノ

トス而シテ遺囑者ノ所有財産ヲ領収シタル場合ニ於テ後キ遺囑者ノ遺言ニ從ヒ人々ニ財産ヲ分配ナスガ如キ其遺囑ヲ執行セスンハアルヘカラス此ニ於テ平身分相續人ヲ保護スル爲メニハ再三種々ノ法律ヲ設ケタリ殊ニ遺囑制限法^{レックス、フルシター}ノ如キハ遺囑者財産ノ四分ノ一ハ必ス身分相續人ニ附與ス可キ保護ヲ與ヘリ而シテヂヤスチニアン帝ノ時代ニ至リ身分相續人ノ地位全ク一變シ身分相續人ハ自己ノ財産ヲ特有シテ遺囑者ヨリ領収シタル財産トハ別離シテ保存シ得ルコトナリタリ〔譯者曰ク是マテノ如ク遺囑者ノ負債ヲ償フニ當リ不足アルモ自己ノ財産ヲ以テ償フニ及ハサルコトナリタルナリ〕且ツ相續者カ身分ヲ相續ナスヲ好マサルノ故ヲ以テ遺囑ヲ無効ニ飯セサラシメソカ爲メ一名以上ノ人ヲ遺囑書ニ記録シ置クノ習慣ヲ生セリ乃チ之レニ記名サレタル人ハ順次身分相續者ノ位地ニ立ツ可キモノトセリ之レヲ名

代相續ト云フ又誰シモ身分相續ヲ厭フタルヲ以テ遺囑者ハ其奴隸ノ

一人ヲ相續者名簿ノ終末ニ擧テ身分相續者ノナキ場合ナカラシメシ

テ豫期スルヲ得タリ乃チ其指名サレタル奴隸ハ法律上身分相續ヲ

謝絶スルヲ得サルモノトス之レヲ有責相續人ト云フ相續人ヲ設ケ或

ハ遺囑物ヲ交附スルニ必要ナル條件ノ幾分ヲ遺囑書中ニ缺漏スルモ

尙ホ遺囑者ノ遺囑ノ表示ハ衡平法ノ委託トシテ遺囑ノ身分相續人ニ

對シ其効力ヲ有スルモノナリ蓋シ斯ノ如キ衡平法ノ委託ヲ以テ法律

上ノ義務トナシタルモノハチトガスタス帝ニシテ遺囑ヲ以テ定メタ

ル取扱ノ方法ニ因テ財產ヲ處分スルヲ明示シタルマテニシテ未ダ

有効ノ遺囑書トナスニ必要ナル儀式ヲ履マサル遺囑附録ヲシテ有効

ノモノトナシタルモ亦同帝ナリ

第七十七節 無遺囑相續

無遺囑相續

若シ夫レ遺囑ナキナ以テ格段ナル財産ヲ相續ス可キ人ヲ斷定シ能ハ
 カル場合ニ於テハ一定ノ法律ニ依テ其相續ノ順次ヲ決スルモノニシ
 テ先ツ第一ニ相續ス可キ人ハ死者ノ權内ニ屬スル子孫スイ、ヘレデスノ中死者ノ逝
 去ニ依テ其親族ノ家長トナル可キ人ナリ故ニ死者ノ子ハ則チ其相續
 人ナリト雖モ其孫ハ死者ノ子死去シタル後チニアラサレハ相續スル
 ヲ得サルモノトス以上舉クル所ノ子孫等ヲ指シテ「スアイ、ヘレデス」ト
 稱シ眷族ノ財産ニ對シ各自ノ利益ヲ屬スルモノナリ若シ「スアイ、ヘレ
 デス」中ヨリ相續人トナル可キモノナキ時ハ正系アヅナチノ眷族則チ父方ノ眷
 族中ヨリ出テ、相續ス父方ノ眷族又缺乏シタル時ハ彼ノ著名ナル羅
 馬十二銅表ノ法ニ依リ同姓センズ共宗中羅馬古代ノ組合ノ名稱ノ一人代テ
 相續スルモノトセリ蓋シ死者同姓共宗者中ノ一員タリシ場合ニ限り
 此相續ヲ許シタルハ勿論ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ死者同姓共宗者中

ノ一員ニアラサル場合ニ於テハ父方ノ眷族以降ノ相續ニ關スル古代
 羅馬ノ固有法ハ固ヨリ知ルヲ得サルトナリト雖モ恐クハ傍系親族ノ
 モノ相續ヲナシタルモノナラン羅馬外國奉行ノ定規ニテハ父方ノ眷
 族缺乏ノ場合ニ於テハ傍系親族ニ其請求ノ權ヲ與ヘ母方ノ眷族即チ
 血脉親族ヲシテ遺產ヲ相續スルト得セシメタリシカ降テ後世ノ羅
 馬法ニ至リ大ニ傍系血統者ノ相續ヲ保護シ種々ノ重要ナル條件ニ依
 テハ單ニ正系親族ノ名アルノミニシテ左マテ近親ナラサルモノヨリ
 ハ寧ロ傍系親族ヲ重ンセリ

シヤスチニアソ法典モ亦集合物權ヲ領得スル三種ノ方法ヲ明示セリ
 然レモ以上述ヘタルカ如キ必要ノモノニアラス其第一種ヲ「ボノラム、
 アツデクシヨ」ト稱シ則チ死者其生存中ニ自由ヲ與ヘタル奴隸ニ死
 者ノ所有物ヲ交附スルヲ云ヒ第二種ハ「ボノラム、グエンデシヨ」ト稱

對人權

シ破産者ノ債主ニ對シ最多額ヲ辨償セント企ル人ニ破産者ノ全所有物ヲ強賣スルノ方法ニシテ第三種ハ「エツキスセナタスコンサルト」ト云ヒ奴隸ト共ニ住食シタル婦人ヲ其婦人ノ財産ト共ニ右奴隸ノ主人ニ交附スルノ方法則チ是レナリ

第四章 對人權ヲ論ス

第七十八節 對人權

對人權トハ余輩已ニ論述シタル如ク甲ナル一人カ乙ナル他人ニ對シテ有スル權利ニシテ例ヘハ甲ナル權利者ニ對シ一物ヲ交附シ一事ヲナシ或ハ一事ヲ善良ニ爲サシムヘク様乙ナル義務者ヲ拘束スルノ權ヲ云フ羅馬法ニテハ此權利ヲ有スル人即チ權利者及ヒ權利者ニ對立スルノ人即チ義務者ヲ指シテ法鎖オブリゲーションノタメニ箝制サレタル者ト稱ス蓋シ法鎖ノ意タルヤ双方ノ對手間ヲ結合スルノ鎖ト云フ義ニシテ此ノ

移權義務
爲禁義務
辨償義務

鎖ノ存在ハ訴訟上對手間ノ一方ヲシテ強テ一事ヲナサシメ或ハ強テ
一物ヲ交付セシムルノ權力ヲ他一方ノ對手ニ附與スルモノナリ固ヨ
リ法鎖ハ直ニ訴訟最後ノ目的トシテ獲ント欲スル一事一物上ニ於
ケル利徳ヲ附與スルモノニアラス唯之レテ獲ルノ手段ヲ授クルニ過
サルハ恰モ羅馬外國奉行ノ制度ニ於テ法鎖ハ一事一物ノ時價ヲ要ム
ル手段ヲ附與スルニ過キサルト一般ナリ

第七十九節

移權義務爲禁義務及ヒ
辨償義務

移權義務爲禁義務及ヒ辨償義務ノ三語ハ法鎖ヨリ生シ得ヘキ諸般ノ
義務ヲ抱括總稱スルニ用ユルモノコシテ法鎖ノタメニ束縛セラレタ
ル人ハ移權義務即チ一物ノ全所有權又ハ占有權ノ交付ヲ執行セサル
ヘカラサルカ或ハ爲禁義務即チ一事ヲナサ、ルヘカラサルカ又ハ之
レヲナスヘカラサルカ或ハ辨償義務即チ損失ヲ辨償シ又ハ物件ヲ供

給スルカ如キ義務ヲ果サ、ルヘカラス但シ物件ヲ供給スルハ移權義務ニ屬スルカ如シト雖_レ玆ニ掲ケタルハ移權義務ノ區域内ニ含蓄セサルモノヲ云フ凡ソ人他人ニ對シテ對人權ヲ有スルモノハ皆權利者ト稱シ而シテ他人ノ請求ヲ満足セシムヘキ義務ヲ負擔スルモノ即チ對人權ニ服從スヘキ人ハ悉ク之レヲ義務者ト云フ「クレデトル」ナル語ハ勿論權利者カ義務者ヲ信任シテ爲ス所ノ取引ヲ指スナリ然レ_レ其之レヲ適用スルノ區域甚タ廣キヲ以テ英國ニ於テ用ユル「クレデトル」(債主)及ヒ「デトル」(負債主)ノ語ト混同スルコトナキヲ要ス

第八十節 法鎖ノ區別

抑、羅馬法律ノ理論ニヨレハ諸般ノ法鎖ハ皆其源ヲ結約者雙方ノ合意或ハ甲者乙者ニ損害ヲ蒙ラシメタルヲ以テ被告者乙ニ其損害要償權ヲ與ヘタル私犯ニ發スルモノトス然レ_レ契約ハ對手間雙方ノ合

意ヨリ生スル法鎖ヲ悉ク抱括スルモノニアラス斯ノ如キ法鎖ハ之ヲ
概稱シテ「コンウエンシヨ」、「パクタム」或ハ「コンウエンタム」即チ單ニ合
意ト云フ則チ契約ハ相互ノ合意ヨリ生スル法鎖ニシテ且羅馬固有法
ニ於テ認定スル所ノ法式ニヨリテ締結シタルモノニ限レリ然レモ古
代ノ法律ニハ契約ノ外又相互ノ合意ヲ表スルニ他ニ一ノ方法ヲ認メ
ス而シテ單ニ合意ノミコテハ無効トナセシヲ以テ斯クハ相互ノ合意
ヨリ生スル諸般ノ法鎖ハ總テ契約ヨリ生スルモノトハ云ヘルナリ

所有物移
轉法

第八十一節 「子キシユーム」〔所有物移轉法〕

「レス、マンシビー」〔屬農業者〕ヲ讓與スルノ定式チ「マンシペーシヨ」〔屬農
業物賣買式〕ト稱スルコトハ余輩已ニ第五十九節ニ於テ之レヲ陳述セリ
ガイアス氏奴隸讓與ノ式ヲ説テ曰ク奴隸ヲ賣買スルニハ丁年ノ羅馬
都人士五名以上ノ保證人及ヒ右ト同一ノ資格ヲ有スル人コシテ一雙

ノ天秤ヲ所持スル人即チ「ライブリベンス」秤手者ノ目前ニ於テ之レヲ
 執行スルモノコシテ買者ハ手ニ一片ノ銅ヲ持チ左ノ言ヲ述フ曰ク此
 奴隸ハ余カ所有ナリ則チ彼奴ハ此銅片ト秤トヲ以テ余ニ購求サレタ
 ルモノナリト然ル後チ買者ハ右ノ銅貨ヲ以テ秤ヲ打チ市價ノ表號ト
 シテ之レヲ賣者ニ讓與スルナリ然レモ此賣買法ノ總稱チ「マンシペー
 ショー」ト云フハ非ナリ却テ「チキシユーム」(所有物移轉法)ト云フヘシ何
 トナレハ此式ヲ用井タルハ賣買ヲ以テ眞ノ目的トスル場合ノミニ限
 ラス附托或ハ質入ノ契約ヲ結フニモ均シク此式ヲ利用シタルヲ以テ
 ナリ此場合ニ於テ買者ハ或ル特定ノ條件ニヨリ再ヒ還附スルハ約束
 チ以テ賣者ヨリ物件ヲ領收シタリ斯ノ如クシテ物件移轉ノ式ノ遂ニ
 半ハ未ダ執行セサル契約ノ式トナルニ至レリ

第八十二節 手渡法鎖ノ契約

手渡法鎖
ノ契約

羅馬固有法カ其完全ノ域ニ達シタル時ニ當リテ外國奉行法ノ組織大
 ニ固有法ヲ變更ナシタルニモ關セス子キシユーム所有物移轉法ハ手渡法鎖ト稱セ
 ラレ恰モ付托及ヒ質入ノ契約ニ於ケルカ如ク重モニ奴隸賣買ノ式ニ
 用非ラレタルモノナリ抑モ手渡法鎖トハ單ニ物件ヲ交付シタル而已
 ニテ其交付サレ又ハ之レヲ領收シタル人ニ對シ法鎖ヲ生シ其交付ノ
 目的ヲ達スルタメ之レヲ保有スルノ義務ヲ負フモノナリ羅馬固有法
 ニテ認定シタル契約ハ其類四アリ蓋シ手渡法鎖ノ契約ヲ認定シタル
 ハ歴史上恐ラシハ口約ウエルビス及ヒ成文約リツテリスノ後ニアリト雖モ法典中ニハ手渡
 法鎖ノ契約ヲ最初ニ示セリ復タ手渡法鎖ノ契約中ニ四種アリ即チ第
 一ミユーテユーム同質物還納約ハ他人ヨリ物品ノ若干ヲ領収シタル人其嘗テ收領シ
 タル同質物ヲ以テ請取リタル高丈ヲ還付スヘキヲ云フ第二コムモデ物件貸與
 約ハ領収者カ曾テ領收シタル其物ヲ返還スヘキ場合ヲ云ヒ第三ノ保デ

口約

護^{ボシタム}預約ハ受托者其委托サレタル物件ヲ安全ニ保存スヘキ義務アルヲ云ヒ第四質^{ヒクナス}入約ハ領収者典物トシテ物件ヲ領収スルヲ云フナリ

第八十三節 ^{ウエルビス}口約

固有法ニ定メタル第二類ノ契約ハ未行契約中口演ヲ以テシ爲タル契約ニシテ即チ嚴格ナル定式ノ言語ヲ用非テ締結スルモノヲ云フ此口約ヲ結フニハ結約者ノ一人先ツ其對手ニ向テ合式ノ口問ヲ呈ス之レ^{スチビエラシホ}チ口式談問ト云フ其對手復々之レニ合式ノ口答ヲ與フルモノトス之レ^{プロミッショイ}レチ口式答約ト云フ而シテ此契約ヲシテ其効力ヲ有セシムルニハ口問ヲ起スニ必ラス約束^{エボンテス}ノ式ニ則トリ汝ハ契約ヲナスカト問ハサルヘカラス口答モ亦必ラス^{スホンデカイ}約束者ノ式ニ則トリ余ハ契約ヲナスモノナリト答ヘサルヘカラス以前ハ「アロシツト」或ハ「ダアト」等ノ如キ語ヲ以テ口約ニ代用スルコトヲ許セシカ統テ右ニ記載シタル如キ嚴格ナル口答

羅馬法沿革史/渋谷慥爾(講義)；畔上啓策(編輯)

(英吉利法律講義録 (1886 (明治 19) 年度 第 1 年級))

139 ページ以降の講義録 (37 号以降) は非所蔵